

令和 8 年度（第 40 回）山崎研究助成金伝達式 あいさつ

令和 8 年 6 月 28 日（日）

本日、研究助成を受けられた児童・生徒、教員の皆さん、受賞おめでとうございます。本年も昨年とほぼ同数の応募をいただきましたが、「激戦」を勝ち抜いた皆さんと共に、受賞を喜びたいと思います。

本日は、静岡県教育委員会教育監、小野田秀生様、研究助成選考委員会委員長、佐田恵子様、そして副委員長の小長谷茂樹様に臨席を賜りました。心よりお礼申し上げます。

さて、近年の日本の科学技術研究の現状として、その立ち遅れが指摘されていることを、昨年の授賞式でお話ししました。それに対して国も様々な対策を打ち出してきましたが、過日文科科学省より、理系人材の充実を目的とした新しい政策の提案がありました。それは、来年度から全国の全都道府県に、大学を中心とした小中校の理系教育拠点を整備するというプランです。

静岡県では、これまでも「静岡 STEAM フューチャースクール」や「未来の科学者養成講座」「浜松トップガン」といった、静岡大学を中心とした同様の取組みが進められてきましたが、これらをもう一段高いステージに高めて、県全体として取り組むことが期待されています。当財団も、こういった動きと連携しつつ、異なる側面からも理系教育の発展を図っていきたいと思っています。

皆さんは、私たちの財団だけでなく、こういった様々な研究機会をも捉えて、自分のやり遂げたい研究に励んでいただきたいと思います。国のためではなく、自分の研究関心や熱意を高いレベルで達成するために、これらの機会を是非活用してください。そして、研究成果を来年の山崎賞に応募し、広く社会にそれを伝えてください。来年の山崎賞受賞式で、皆さんに再びお会いできることを、心から楽しみにしています。

以上で私からのご挨拶といたします。ありがとうございました。

代表理事 丹沢哲郎